

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-247351

(P2006-247351A)

(43) 公開日 平成18年9月21日(2006.9.21)

(51) Int. Cl.

A63B 69/36 (2006.01)

F1

A63B 69/36 511Z

A63B 69/36 504E

テーマコード(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2005-112724 (P2005-112724)

(22) 出願日 平成17年3月11日(2005.3.11)

(71) 出願人 599076594

金杉 弘男

東京都練馬区西大泉5丁目8番5号

(72) 発明者 金杉 弘男

東京都練馬区西大泉5-8-5

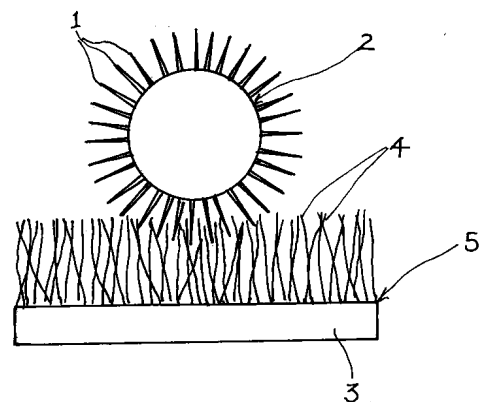
(54) 【発明の名称】 ゴルフのバンカー用練習具

(57) 【要約】

【課題】 バンカーでの練習を、身近な場所で容易に出来るようにしたゴルフのバンカー用練習具を提供する。

【解決手段】 外周面の全面に亘って放射状に多数の弾性針1を植設された球体2と、上面に多数の弾性毛4を植設された人工芝板5とを備えている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外周面の全面に亘って放射状に多数の弾性針 1 を植設された球体 2 と、上面に多数の弾性毛 4 を植設された人工芝板 5 とを有するゴルフのバンカー用練習具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、ゴルフのバンカー用練習具に関する。

【背景技術】

【0002】

ゴルフの打ち放し練習場に、バンカー用練習設備を備えているものは極めて稀である。ところが、バンカーからの脱出は、なかなか難しいものであり、練習の必要性は、ゴルファーが痛感しているところである。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

例えば自宅にてバンカーでのスイングを練習するには、庭に模擬バンカーを設備することになるが、スイングの際、砂が飛散できて、ボールが飛翔できる、かなりの広さを必要とする。かかる広さを通常の庭で確保することは極めて難しい。

この発明は、バンカーでの練習を、身近な場所で容易に出来るように工夫されたゴルフのバンカー用練習具を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

【0005】

上記課題を解決するため、この発明は、外周面の全面に亘って多数の弾性針 1 を植設された球体 2 と、上面に多数の弾性毛 4 を植設された人工芝板 5 とを備えたゴルフのバンカー用練習具に構成した。

【発明の効果】

【0006】

人工芝板 5 の上面に球体 2 を置いてゴルフのバンカー用クラブ（以下、これをサンドウエッジと言う）でこの球体 2 の直ぐ手前の人工芝板 5 の弾性毛 4 の箇所を、クラブのエッジ（クラブフェイスとパンス（クラブフェイスの裏面）とで形成されているスイング側端部）にて叩くようにスイングすることにより、バンカーでの練習が実行できる。

即ち、人工芝板 5 の上面に置かれた球体 2 は、その弾性針 1 と人工芝板 5 の弾性毛 4 との夫々の先端部が互いに入り込むような状態となっている。この状態で、球体 2 の直ぐ手前の人工芝板 5 の弾性毛 4 の箇所を、エッジにて叩くようにスイングする。

このとき、弾性毛 4 の先端上部分は、パンスをスイング方向前方へ押動して上記球体 2 の弾性針 1 を介して球体 2 を斜め前方へ撥ね飛ばすことになる。

球体 2 外周面の多数の弾性針 1 は、この撥ね飛ばしのときに大きい空気抵抗を生じるため、飛距離は僅かとなる。

【0007】

スイングが正しいものであれば、パンスは弾性毛 4 の先端上部分をスイング方向前方へ押動するので、弾性毛 4 は球体 2 の弾性針 1 を介してこの球体 2 を、弾性毛 4 の上面である水平面に対して、約 30° 程度の仰角で斜め前方へ撥ね飛ばすことになる。

【0008】

これに対し、スイングが不正なときは、次項で述べるように、球体 2 は真上方向に放擲され、あるいは、球体 2 は水平面を這うようにして前方へ放擲される。

【0009】

即ち、球体 2 が真上方向に放擲されるのは、いわゆるダフリと呼ばれている不正なスイングであり、これは、エッジが球体 2 からかなり離れた下方を叩くものである。このとき

10

20

30

40

50

、バンスが弾性毛 4 によって前上方向に押動され、弾性針 1 を介して球体 2 は、真上方向に持ち上げるように撥ね飛ばされている。

【0010】

又、球体 2 が水平面を這うようにして前方へ放擲されるのは、いわゆるトップと呼ばれている不正なスイングであり、これは、エッジが球体 2 を直接叩いたり、或は、エッジが球体 2 の下部付近の弾性針 1 を叩いたために、下部の弾性針 1 が球体 2 を前方へ撥ね飛ばすものである。

【0011】

以上のように、この発明のゴルフのバンカー用練習具を用いれば、砂の飛散は無く、ゴルフボールの過大な飛翔も無く、球体 2 の放擲軌跡を見ることによってスイングの正、不正を容易に判別し得て、身近な場所でのスイングの練習が容易となった。

10

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、この発明を実施するための最良の形態を図に基づき説明する。

図 1 は、この発明の一実施の形態に係るゴルフのバンカー用練習具の正面図（使用時では側面図となる）である。

ゴルフボールに相当するものは、外周面の全面に多数の弾性針 1 が放射状に設けてある球体 2 である。

同図では、図を簡明にするため、正面視で球体 2 の最大径部に設けられている弾性針 1 のみを示している。

20

砂に相当するものは、基板 3 に多数の弾性毛 4 を密生して植えた人工芝板 5 である。

【0013】

球体 2 は、中空に硬質プラスチックで軽量に造られ、弾性針 1 は、十分な弾性を備えて剛性を持つビニールで造られるのが好ましい。

球体 2 外周面の多数の弾性針 1 は、放擲時に大きい空気抵抗を生じるため、飛距離は僅かとなる。

【0014】

基板 3 は、軟質ビニール板または、ゴム板が好ましく、これにより、多少の凹凸がある路面でも、基板 3 は安定して設置される。

弾性毛 4 は、十分な弾性を備えて剛性を持つビニールで造られるのが好ましく、エッジによる打撃を受けたときの弾性毛 4 の弾性と剛性の反発力は、砂が飛散するときにゴルフボールに作用する放擲力に対応できる。

30

【0015】

この発明の上記構成は、以下に述べるように、従来からプロゴルファなど、熟達したプレーヤーによって実用されている、バンカー練習法を参考にして想到したものである。以下、従来の上記バンカー練習法における、スイング過程を図 3 (a) ~ (d) に基づき説明する。

これは、芝草 15 の上に置かれた松かさ 12 を、バンカー内の砂に落ち込んでいるゴルフボールに見立てて、この松かさ 12 の直ぐ手前の芝草 15 をサンドウェッジ 6 で叩くものである。

40

図 3 (a) ~ (d) は、正しいスイングのとき、スイング過程をビデオカメラで撮影した写真をなぞったもので、視線を低くした斜視図で示している。

【0016】

図 3 (a) は、サンドウェッジ 6 を松かさ 12 のかなり手前で構えている、正しいアドレス位置である。

図 3 (b) は、ショットの直前を示すものである。このアドレス位置から、松かさ 12 が置かれている直ぐ手前の芝草 15 の箇所を、サンドウェッジ 6 のエッジにて叩くようにスイングしてショットする。

【0017】

図 3 (c) は、ショット直後を示すもので、芝草 15 の先端上部分は、サンドウェッジ

50

6のバンスをスイング方向前方へ押動して松かさ12をわずかに撥ね上げている。

図3(d)は、正しいスイング終了時を示すもので、松かさ12は、芝草15の芝上面である水平面に対して、約30°程度の仰角で斜め前方へ撥ね飛ばされている。

【0018】

次にこの発明のゴルフのバンカー用練習具を用いたスイング過程を、図4(a)~(d)に基づき説明する。

図4(a)~(d)は、正しいスイングがなされたときのスイング過程を側面図で示している。

図4(a)は、サンドウェッジ6を球体2のかなり手前で構えている、正しいアドレス位置である。

図4(b)は、ショットの直前を示すものである。このアドレス位置から球体2が置かれている直ぐ手前の人工芝板5の箇所を、サンドウェッジ6のエッジにて叩くようにスイングしてショットする。

【0019】

図4(c)は、ショット直後を示すもので、人工芝板5の弾性毛4は、サンドウェッジ6のバンスをスイング方向前方へ押動して弾性針1を介して球体2をわずかに撥ね上げている。

図4(d)は、正しいスイング終了時を示すもので、球体2は、人工芝板5の弾性毛4の上面である水平面に対して、約30°程度の仰角で斜め前方へ撥ね飛ばされている。

球体2外周面の多数の弾性針1は、この撥ね飛ばしのときに大きい空気抵抗を生じるため、飛距離は僅かとなる。

【0020】

図2に、この発明のゴルフのバンカー用練習具を使用したときのスイング軌跡と球体2の放擲位置を、正しいスイング、不正なスイングの夫々の場合について、側面図で示した。

人工芝板5に置かれているときの球体2は、実線で示されている。

【0021】

正しいスイングのとき、スイング軌跡と球体2の放擲位置を、何れも一点鎖線で示している。

球体2は人工芝板5の弾性毛4の上面である水平面に対して、約30°程度の仰角で斜め前方へ撥ね飛ばされている。

【0022】

いわゆるダフリと呼ばれている不正なスイングのとき、スイング軌跡と球体2の放擲位置を何れも二点鎖線で示している。

サンドウェッジのエッジ(図示は省略)は球体2からかなり離れた下方を叩いていて、バンスが弾性毛4によって前上方向に押動され、弾性針1を介して球体2は真上方向に持ち上げるように撥ね飛ばされている。

【0023】

又、いわゆるトップと呼ばれている不正なスイングのとき、スイング軌跡と球体2の放擲位置を何れも点線で示している。

図示しないエッジが球体2を直接に叩いたり、或は、エッジが球体2の下部付近の弾性針1を叩いたために、下部の弾性針1が球体2を前方へ撥ね飛ばしている。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】 この発明のゴルフのバンカー用練習具の正面図である。

【図2】 図1のバンカー用練習具を使用したときのスイングの正、不正の夫々の場合のスイング軌跡と球体の放擲位置を示す側面図である。

【図3】 従来のバンカー練習法でのスイング過程を示すもので、視線を低くした斜視図である。

【図4】 この発明のバンカー用練習具を使用したときのスイング過程を示す側面図であ

10

20

30

40

50

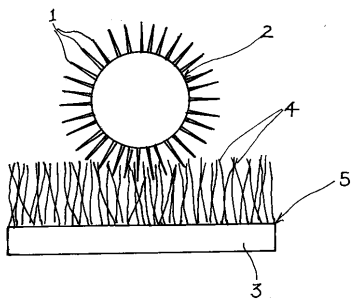
る。

【符号の説明】

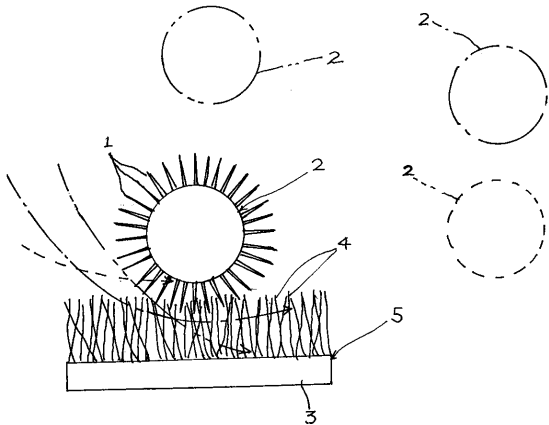
【0025】

- 1 弾性針
- 2 球体
- 3 基板
- 4 弾性毛
- 5 人工芝板
- 6 サンドウェッジ

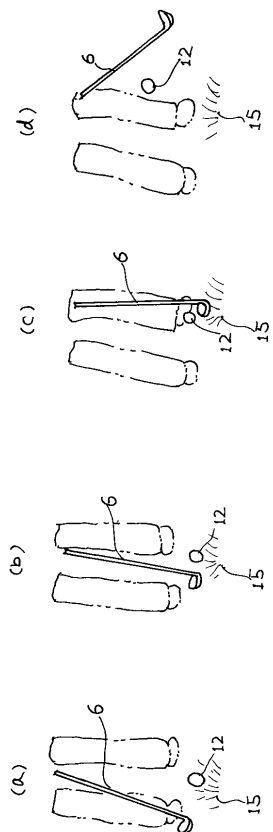
【図1】



【図2】



【図3】



【 図 4 】

